

京大発
バイオVB

臨床検査受託大手から社長

京都大学発バイオベンチャー企業のレドックス

・バイオサイエンス(京都府)は、臨床検査受託大手のファルコバイオシステムズの松本昇三取締役(59)を社長に迎えた。前社長は非常勤だったが、常勤できる松本氏が社長に就くことで経営体

制を整え、二〇〇六年にも上場を目指す方針。

前社長の久下俊夫氏(54)は取締役相談役に

退く。松本氏はファルコの取締役も引き続き兼任する。同社は二〇〇一年の設立以来、社長が常勤

できない状態で経営してきたが、常勤できる社長を置き会社としてのまとまりや経営能力を高める。

レドックスはストレスを和らげる効果があるチオレドキシンというたんぱく質の研究が中心事業。両社に資本関係はないものの、体内のストレス状態を計測するマイクロチップの開発などで協力している。今後はファルコの営業網を活用して同チップを販売するほか、チオレドキシンを機能性食品や医薬品の開発に応用する考え。